

民主化闘争情報

No. 882
2013年9月26日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR北海道において事故・不祥事が多発し、国民・道民の信頼を回復すべく、その再生にむけて取り組みを進めている中、その北海道において、23歳の青年がJR総連と決別し、貨物鉄産労に加盟した。

北海道で23才青年が加入！ 拡大が続く貨物鉄産労

JR貨物・北海道支社内で、23才青年が「平和共存否定」のJR総連と決別し、加入を果たす！！

JR総連の牙城の一つである、北海道地区において、JR貨物・鷲別機関区輪西派出に勤務する23歳の青年組合員が9月24日付で日貨労を脱退、加入した。

貨物鉄産労は、昨年1年間で9名の青年組合員を含む11名の組織拡大を果たしていたが、新年度も組織拡大の流れが続いている。

青年を中心に組織拡大が続く！

8月25日、貨物鉄産労・北海道地区本部は定期大会を開き、挨拶にたった菅野委員長は「貨物会社にとって安全は重要である。過去に石勝線や江差線での脱線事故や、函館本線での豪雨災害による脱線事故も発生している。労働災害も含め、安全の確立が強く求められている。安全を基盤としつつ、組織拡大についても最大限の取り組みを行おう」と意思統一を図り、組織拡大の取り組みを強化することを提起していた。

そうした中での今回の青年の加入を心から歓迎するとともに、日夜を問わず輸送業務に従事する一方で、献身的な世話役活動をしている貨物鉄産労・北海道地区本部を支える皆さんに心から敬意を表したい。

安全最優先のJR連合・貨物鉄産労に結集し、心一つに、 前を向いて仕事ができる環境を創りだそう！！

先に就任された、日本郵船元副社長の石田会長はその就任挨拶で「全員が一つになって改革に取り組むことが大事」と述べている。貨物鉄産労は「これまでの労使関係すなわち日貨労中心の労務政策では、貨物改革はできない。政策力でJR貨物の未来を支えるJR連合、貨物鉄産労に結集しよう！」と他労組組合員に訴え、さらなる組織拡大を図るべく、各級機関に檄を飛ばしている。

日貨労組合員のみなさん、JR連合に結集・団結し、
安全で信頼されるJR産業をめざしましょう！